

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104738
法人名	有限会社 ころ
事業所名	グループホーム里山
所在地	愛媛県松山市鷹子町乙409-2
自己評価作成日	平成24年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

○おやつは手作りを基本とし、調理方法や見た目、味にも気を配っている。
 ○町の運動公園が近隣にあり、地域の行事もよく行われるので、参加しやすい。
 ○周りが自然にあふれ、長閑な環境の中でゆったりとした時間が送れる。
 ○職員は笑顔で明るい

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●昨年、地域包括支援センターから、「認知症サポーター講座」の講師依頼があり、施設長とケアマネジャーが務められた。
 ●献立は、利用者の希望をお聞きして職員が作っておられ、事業所で食事作りをされている。事業所の畑で採れた野菜等、新鮮で旬のものを使用されている。食前には、口腔体操を行い、職員も同じテーブルで利用者と一緒に同じものを食べておられた。食事の味付けは、やや薄味に作っておられ、「味が薄い」と言う利用者には、醤油を足す等して調節をされている。利用者は、野菜を洗ったり切ったりされる。おやつも手作りを心がけておられ、調査訪問時のおやつは手作りパンであった。焼きそば・たこ焼き・クレープを利用者の目の前で作り、出来たてを楽しむ「食べ物大会」を企画した際には、普段少食な利用者も、沢山食べられたようだ。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム里山

(ユニット名) 空

記入者(管理者)
氏名 竹本 亜矢

評価完了日 平成24年9月1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 朝の申し送りの際に理念や社訓を声に出して読み、再確認し、1日実践に心掛けている。	
			(外部評価) 理念には、「明るく健康で心豊かなその人らしい生活ができる安らぎのある暮らしを支えます。地域と共に支えます。」と揚げておられ、朝の申し送り時に唱和して、日々、理念に立ち返りながらケアに取り組まれている。又、5項目の社訓を「笑顔と感謝とやさしい言葉」とまとめ、理念とともに居間の壁に掲示されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の方を交えての行事、町内の夏祭りに出店を出しての参加、近隣の幼稚園との交流、ボランティアさんによる催し物等があり、地域との輪が少しずつ広がっているように思う。	
			(外部評価) 事業所の前にある運動公園で開催される地域の夏祭りには、事業所でも、ヨーヨーやバルーンの出店を出して地域の子ども達と交流をされた。休日は子ども達がたくさん公園に遊びに来るため、利用者は、その様子を見て楽しまれている。毎年、地域の中学生の職場体験学習を受け入れておられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 包括支援センターや他のグループホームと共同で、地区の小学生に認知症を知ってもらう為の取り組みを予定し、まず小学校教諭を対象に認知症の勉強会を開催した。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議時、問題を提示し、家族や行政の方、民生委員や町内の方等を交え、建設的な意見が出されている。参加者の意見を参考にし、サービス向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、メンバーが参加しやすい曜日や時間帯を検討して計画されている。今年度から地区の公民館長と小学校の校長先生がメンバーとして参加して下さることとなったが、今のところ、日程の都合上、出席するまでには至っていない。ご家族は、全員に会議案内を出して2～3名のご家族が出席してくださっている。会議では、事業所の現状や今後の計画を報告して意見交換をされており、民生委員やご家族が積極的に意見を出してくださっている。会議後、利用者と一緒にそうめん流しを楽しまれたこともある。毎回、参加者には「かび対策」や「インフルエンザ予防」等、生活に役立つ内容のパンフレットや冊子を持ち帰ってもらえるよう用意されており、参加者からは「役に立ちありがたい」との感想もいただくようだ。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議時、伝えてはいるが、日頃から連絡を密にする程ではない。が、問題発生時や分からない事があれば、すぐ相談・報告をしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、市の担当者等が参加されており、「熱中症について」や「食中毒について」等のアドバイスをくださっている。昨年、地域包括支援センターから、「認知症サポーター講座」の講師依頼があり、施設長とケアマネジャーが務められた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 基本的に身体拘束を行っていない。場合により、夜間帯の一定時間だけ、徘徊のある利用者の安全の為、廊下の入口の施錠を行なう事がある。</p> <p>(外部評価) 管理者は、ケアの場面を捉えて職員に具体例を提示しながら、身体拘束の対象となる具体的な行為を説明されている。居室が玄関に近く、一人で外に出かける利用者は、出かけることが分かるよう、居間に近い居室に移ってもらう場合もある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日頃から職員間で話し合い、職員のストレス等で行為に及ばない様に、お互いに声掛けをしあったり、勉強会も行い、細心の注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加した際は、研修内容や学んだこと等をまとめ、報告する機会を設けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族の意見をお聞きし、理解や納得して頂くまで幾度も話し合う機会を持っている。 また、本人にも実際に見て頂き、納得するまで説明を行なっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関先に意見箱を設置している。 また、直接意見があれば直ぐにお聞きし、みんなで検討し、出来るだけ実践が出来るよう心掛けている。	
			(外部評価) 毎朝の申し送りの後で、理念とともに挨拶のことば「おはようございます」「こんにちは」「ありがとうございます」「よろしくお願ひします」を唱和して、接遇改善につなげられるよう取り組まれている。最近、ご家族から「挨拶が良くなった」との感想もあったようだ。ご家族には「さとやま通信」を年4回送付されており、表紙は利用者個別に写真を入れ替え、職員から近況報告を載せて作成されている。遠方に住むご家族からは、「頻繁に訪問できないが、ホームでの生活の様子がよく分かる」と好評のようだ。運営推進会議時、ご家族から、「衣類に他人のものが混じっている」との意見があり、利用者が洗濯ものを畳み、分けてくださった際には、職員が衣類を再確認することを徹底された。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>月1回行なわれているスタッフミーティングや毎日の申し送りで意見交換や提案などをする機会を設けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員会議は、毎月、夕方に行なっておられたが、出席し難い職員もあり、職員からの意見で現在は、午前中に行なっておられる。会議時には、利用者のケアの統一や行事について話し合われている。職員は「環境整備」「安全・防災、通信」「オムツ管理」「献立作り」等、業務を分担して責任を持って取り組まれており、年に1回、担当を交代して協力し合っ取り組まれている。現在、事業所では、利用者のケア等について、個別に「申し送りノート」と業務の「連絡ノート」を作っておられるが、「職員間の申し送りがきちんと出来ていないことがある」と管理者は、課題を挙げておられた。</p>	<p>運営推進会議時、地域包括支援センターの担当者から、「一度申し送りの方法について職員で意見交換をしてみてはどうか」とアイデアをいただいた。この機会を活かして、現場職員の意見等も聞きながら、職員間の情報共有の仕組み作りに取り組まれてはどうか。そのような取り組みを、運営推進会議やご家族等にも報告されてはどうか。</p>
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>個々の面談を通じて意見や要望を聞き、運営に反映させている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>研修の内容により、参加を勧めている。 また、持ち回りで資料を作り、レポート提出をする等、スキルアップに努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>地域の行事の際や、グループホーム交流会に参加して勉強させて頂いている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>入所前の面談の時からじっくりと話をお聞きし、話し合いによって信頼関係を構築している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 不安や要望、ホームになにを求めているか等何度も話し合い、その都度、解決策や出来る事、困難な事等の相談を重ね、少しでも多くの要望を取り入れる様努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者やご家族の思いや希望をお伺いした上で、適したケアプランを作成している。 その後、利用者やご家族に確認して頂き、プランを実行している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 会話を重視したケアを心がけ、家事・レクリエーション・散歩等を通し、出来る範囲の事は御自分でして頂ける様手助けし、本人と共に過ごし、支えあうようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方が参加出来る行事を多く計画したり、運営推進会議後に一緒に過ごせる事が出来るようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会者があれば気軽に来て頂けるような声掛けを行なっている。利用者が望んでいたら、こちらから出掛けたりもしている。 (外部評価) 「家に帰りたい」という気持ちを持っている利用者には、ご家族とも相談して、ご自宅に戻るような機会を作り、利用者の納得と満足につなげられるよう取り組まれている。又、馴染みの美容院へ出かけられるよう、職員が付き添われたり、ご家族と一緒に出かける場合は、歩行や排泄のこと等、気を付ける点を先に伝えるようにされている。ボランティアの方が教えてくださった絵手紙の年賀状や暑中見舞いを、ご家族に送れるよう支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーション時や、食事・おやつ時等、職員が話題を通して利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 外で会った時には様子をお聞きしたり、電話がかかってきた時は相談に応じたりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、要望や不安等の把握に努めている。それらを毎日の申し送りで職員が情報の共有をし、ケアに反映させている。 (外部評価) 職員は、利用者、「思い出をたくさん作ってほしい」と願っておられ、利用者との普段の会話の中から「希望や意向をキャッチ」できるよう努力をされている。利用者が子どもの頃からある「かすり会館」へ行ってみたくてと言われる利用者がおられ、職員は、近々お連れしたいと考えておられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人やご家族、以前にいた施設・病院に情報を教えて頂き、記録に残し、職員全員が把握出来るように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の生活を観察しながら、会話や表情、態度などから思いを汲み取るように心掛けている。また、日々の記録を通して生活パターンや変化の把握を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人の希望や現在の状況、状態・課題を月に1回のミーティングで話し合い、現状に応じたプランを作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者のご家族からの希望を聞き取り、それをもとにして利用者個々の担当職員とケアマネジャーが話し合い、介護計画を作成されている。ご家族から「家事を行えるよう計画に入れてほしい」と希望があり、利用者が無理なく行える台所での食器洗いや洗濯物畳み等を計画に盛り込み、支援されている。支援内容を書き出して、毎日「支援できたか」チェックしてモニタリングを行っておられる。そのモニタリングを踏まえて、6ヶ月毎に介護計画を見直すようになっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>プラン実践状況を毎日チェックしており、実施回数が少ないプランに関しては、再度職員間で話し合い、実施内容を変更・見直しを行なっている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>急な外出や買い物、見舞い等、希望や要望があれば、可能な限り一緒に出掛けている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>老人クラブ・民生委員・包括支援センターの活動内容を把握し、当ホームの行事時に協力頂いている。また、こちらも協力要請があれば参加している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) ご家族の希望が無ければ、ホームの協力病院を勧め、同意を頂ければ主治医になって頂き、定期の往診や希望時にも往診を行なってもらえるようにしている。 希望があれば、主治医と相談した上で他の病院へも自身出来るよう支援している。</p> <p>(外部評価) 協力医が月2回往診に来てくれるようになっており、夜間の対応もして下さる。夜間、利用者の状態のことで相談された際には、翌日経過確認の電話をかけて来てくださることもある。調査当日は、往診日で、利用者は居間で診察を受けておられた。歯科の往診もあり、現在、7名の利用者が診てもらっている。皮膚科や眼科の受診は、ご家族に連絡してから職員が同行しておられ、受診後は結果をご家族に報告されている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 看護職員が利用者の状態を理解し、体調や異変があった時は相談し、しかるべき処置が出来るようにしている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院中も病院・ご家族と連絡しあい、情報交換を行い、退院後も指導を受けたりしている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ターミナルケアのあり方について、早い段階からご家族と話し合いを行い、事業所で出来る事を十分に説明しながら方針を共有し、主治医等と共にチームで支援している。</p> <p>(外部評価) 現在、「事業所で最期を迎えたい」と希望する利用者は多数おられる。調査訪問日には、終末期を迎えている利用者が2名おられた。ご家族の希望で点滴を受けたり、又、ご本人がお好きな「お粥」や「芋の煮ころがし」を口にできるよう、ミキサーにかけてお出ししたり、又、栄養補助食品も用いて見ておられた。ご家族は、毎晩泊まりに来られ、一緒に過ごされている。調査訪問時は、居室にご本人の好きな歌手の歌が流れていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時用のマニュアルを作成し掲示したり、救命救急の講習などを行なっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防計画を立て、定期的に消防署員の指導の下、訓練を行なっている。 またその時に地震の際の訓練も取り入れるようにしている。	
			(外部評価) 消防署の協力を得て、避難訓練を実施されている。消防署の方から「避難口は玄関だけでなく、他の避難口も使うように」等、アドバイスがあった。放火等も心配されるため、事業所の周りには「燃えやすい物を置かない」ことに気を付けておられる。又、放火防止のために、自転車置き場と洗濯干し場にセンサーライトを取り付けられた。非常時のために、食料の備蓄と、さらに、応急処置用品や紙の食器も備えられた。居室のタンスは地震時に倒れないように、突っ張り棒を取り付けておられた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人と関わり合いを持ち、個々の個性や趣味を理解し、それに沿った会話を心掛けている。 オムツ替えや個人的な相談など、部屋のドアを閉め、安心出来るよう配慮している。	
			(外部評価) 職員は、利用者とお話する時には、「プライバシーを損ねないよう、今までの生活歴を知って話す」ことに気を付けておられる。職員は、利用者に対して「自分も行く道」という姿勢でかかわっておられ、「自分が言われたり、されて嫌なことはない」ことに心がけておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話やケアの中から、本人の思いを知る事が出来るよう関わっている。 また、本人の思いを重視して、声掛けは行なうが、自己決定出来るように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り個々人のペースに合わせるようにはしているが、時折本人が出来る事を介助してしまう事がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ボランティアによる定期的な散髪を実施している。 日々の洋服選び等は、利用者の希望に合わせている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者によって普通食・キザミ食など、本人に合った食事を提供している。 食事の準備等一緒に出来る事があれば協力して頂いている。 メニューは利用者の希望や季節を重視するよう、心掛けている。	
			(外部評価) 献立は、利用者の希望をお聞きして職員が作っておられ、事業所で食事作りをされている。事業所の畑で採れた野菜等、新鮮で旬のものを使用されている。食前には、口腔体操を行い、職員も同じテーブルで利用者と一緒に同じものを食べておられた。食事の味付けは、やや薄味に作っておられ、「味が薄い」と言う利用者には、醤油を足す等して調節をされている。利用者は、野菜を洗ったり切ったりされる。おやつも手作りを心がけておられ、調査訪問時のおやつは手作りパンであった。焼きそば・たこ焼き・クレープを利用者の目の前で作り、出来たてを楽しむ「食べ物大会」を企画した際には、普段少食な利用者も、沢山食べられたようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食、バランスの取れた食事を食べやすく、その人にあった食態に調理している。 状態に応じて、栄養補助食品やトロミ材を用いることもある。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後自力で出来る方には口腔ケアの声掛けを行い、実施して頂いている。 また、自力で出来ない方は出来ない所を介助し、入歯洗浄を行ったり、口腔状態をチェックしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 出来る限りトイレ排泄を心掛け、個々の排泄パターンを監察し、声掛けや時間でトイレに座ってもらっている。	
			(外部評価) 排泄チェック表には、排泄の状況を細かく記録して利用者個々の排泄の傾向を探り、支援につなげておられる。夜間、おむつを使用する方も、昼間はトイレで排泄できるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 近隣の運動公園まで散歩に行ったり、廊下歩行や体操を行っている。 下剤を服用して頂かないといけない事もあるが、出来る限り食事や牛乳等を飲んで頂き、自然に出るよう心掛けている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の体調や気分によって、時間帯や日にちを変更している。 好みのシャンプーや石鹸を準備し、入浴を促している。	
			(外部評価) 事業所では、午後からが入浴時間となっている。入浴を嫌がる方でも、実際に入浴剤を入れた湯船を見てもらい「道後温泉の湯ですよ」と言葉をかけると、ご本人は、「本当よ。じゃあ、入ろうかい」と気が向くこともあるようだ。好みのシャンプーやボディソープを使用している方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 消灯時間を個々に合わせているが、昼間はなるべく起きて、レクリエーションや体操に参加して頂き、夜間安眠出来るようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) どんな薬を飲んでいるかは薬の説明書を見て確認をしている。 服薬の準備をする人・服薬させる人と違う眼で再確認しあい、薬を渡す際には、声を出し名前と日にちを確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーション・切り抜き・編み物・食事の手伝い・洗濯物たたみなど、それぞれ出来る事をして頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 御本人の希望や都合に応じて、家族・兄弟に会いに行ったり、買い物や美容院へ出かけたりしている。	
			(外部評価) 気候の良い時期には、近所の公園に散歩に出かけておられ、時には、おにぎりやおやつを持って出かけることもある。「買い物ツアー」でショッピングモールへ出かけた際には、洋服やバッグ・手芸用品等の趣味のものを買ったり、ウインドショッピングを楽しむ方もいる。「一泊旅行に行きたい」と希望する利用者もあるが、現在は、職員の人手や金銭的なこともあって、実現することに難しさがあるようだ。	さらに、外出支援のサポーターを増やせるような取り組みをすすめる等、利用者個々の行ってみたいところや懐かしい場所等を探り、出かけてみるような機会を作ってはどうか。旅行等、実現に難しさ等もあるだろうが、ご家族等、サポーターの力もお借りしながら、チャレンジしてみしてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理は職員が行なっているが、欲しい物をお聞きし買い物代行を行ったり、職員が付き添い買い物に行ったりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば実施出来るよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 花を生けたり、壁には行事毎の写真・習字、ご利用者の作品を飾ったりしている。	
			(外部評価) 玄関入り口横にはベンチが設置されており、ちょっと休めるようになっている。居間や玄関には、絵手紙や行事、外出時の写真が飾られていた。昼食後には、コーヒーを飲みながらテレビをみたり、畳のスペースで横になって休む等、それぞれに過ごしておられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者同士がお互いの居室に出入りをしたり、リビングでTVを見たり、音楽を聴いたりと一緒に過ごしている。また気分を変えて各階に行き、交流している。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 個人の使い慣れた家具や家族の写真が置かれ、好みの空間を作り出している。 家族の写真や、絵手紙など、好きな物を壁に貼られている。	
			(外部評価) 調査訪問時、「チョッキを編んで孫におくるのよ」と編みかけのものを見せてくださった利用者は、ご自分で手が届きやすいように、ベッド周りに、編み棒や糸を置いておられた。趣味で作った人形をケースに入れ、飾っている居室もみられた。俳句を詠む利用者は、短冊に自作の俳句を書き、居室の入り口に掛けておられた。長寿のお祝いの表彰状やお孫さんの結婚式の写真を飾っている方もあった。毎日、お化粧する方や、ご自宅で使用していた応接椅子を持ち込まれている方もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ベランダの花の水遣りや、お茶を点てて頂く等、安全に考慮しながら、個々の出来る事を出来る時にして頂くよう支援している。	
			(外部評価)	